



横浜日中友好協会 会長 飯田助知

寄稿 (地域協会会長①)

横浜日中友好協会の常設事業としては1973年開講の中国語講座、1980年発足の太極拳講座があり、それぞれ良き講師陣に恵まれ、順調に充実発展してきましたが、このところ、日本に來られて間もない中国の方々に日本語学習のお手伝いをするという事で始めた日本語

ボランテニア活動がとにかくに人気となり、注目を集めるようになってきました。「教えることは学ぶこと」のたとえ通り、学ぶ側に大きな恩恵となると同時に教える側にも勉強になることが多いと報告されています。以下に、本事業の概要を紹介させていただきます。

2006年から試験的に始まり、2009年、正式に「日本語ボランティアの会」として本協会の事業に位置づけられました。

中心で男女ほぼ同数。20代後半から30代が中心という目的で、支援者と学習者の募集は、横浜国際交流センター(YOKE)や本協会のホームページで行っています。昨年1年間、支援者を希望してきた人は27人、学習を希望してきた人は56人。支援者と学習者のマッチングは52件。

支援者同士の交流は年2回「支援者連絡会」を行っていますが、学習者同士の交流はこれからの課題です。ただ、毎年本会で行う「日中交流バス旅行」に多くの学習者が参加しています。

第33回全日本中国語スピーチコンテスト開催

神奈川県代表、大活躍!

第33回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会が、1月10日(日)東京・日中友好会館で開催された。

本県からは、全国本部で

の審査(県大会での発表テープによる審査)を突破し、2名が本大会に出場した。「大学生部門」には高瀬美穂さん(東京外国語大学2年)が出場、見事第2位に入賞し、併せて日本放送協会賞も獲得した。本県選手の上位入賞は3年ぶりであり、年々レベルが高くなっている中での快挙であった。

高瀬さんは大会を振り返って、「もう一歩であり、残念でした。これをバネに今後も中国語の勉強に励んでいきたい」と語っていた。

また、朗読発表会の「中学生・高校生の部」には、梅澤時哉君(横浜市立小山中中学1年)が出場し、優秀賞を獲得した。梅澤君は、本大会の最年少受賞者という素晴らしい記録での受賞であった。

梅澤君は、「これまで熱心に指導していただいた張志宏先生や、応援してくれ

た家族、多くの皆さんに感謝しています」と話していた。

二人は発表会後の懇親会にも出席し、審査員の先生方や中国大使館の汪婉参事官等と、中国語の勉強方法や今後の進路について、親しく話していた。二人にとって楽しい時間を過ごし、思い出に残る発表会になったと思われる。



優秀賞の梅澤時哉君



全国第2位の高瀬美穂さん